

なぜ、水道水を止めるのですか？

宇治市開地区自治連合会会長 海老温信

宇治市水道部は、2月5日、私たちの地域（開浄水場水道水家庭）に「開浄水場休止について（お願い）」と題したチラシを配布。三度、休止を行う意思を表明されました。（市水道部の休止発表から3年間、給水は継続中です。）

しかし、19年3月から12月までの地元説明会では、休止理由が二転三転。結局、休止の本当の理由は明らかにされませんでした。また、その後の裁判での休止理由は、住民への説明とは全く違うものでした。

1 「無理強い」は市のすることでしょうか

一昨年12月選挙時の現久保田市長の公約は、「市民が主役のまちづくり」「地域が主役の夢づくり」でした。地元住民に納得のいく説明をされないまま、「三度、実力で休止」することがあって良いものでしょうか。

2 「説明会」を求めています

2月5日、私たち自治会は桑田水道事業管理者に話し合いの申し入れを行いました。水道管理者は地元説明会に一度も出席しないまま、08年12月以降話し合いを一切拒否。実力で休止することばかりを考えています。

住民に理解と協力を求めるのであれば、1枚のチラシではなく、地元住民と真摯に話し合うことが、水道管理者に求められることではないでしょうか。

3 住民の寄付でポンプ交換を

チラシの中に、「老朽化によりポンプの揚水能力が低下し、断水の恐れがあります」とあります。

18年度予算で交換するはずのポンプを、他の施設に流用したまま放置した責任には全く触れず、さらに、私たちが寄付した250万円の交換費用も供託されたままです。

当初の地元住民や議会への説明からすれば、この3年間で状況は大きく変わっています。休止の是非について、地元住民と話し合いをしていただきたいと私たちは強く求めます（願っています。）

本文 35字×25行＝875字

洛南タイムス

FAX 21-6411

Email: info@rakutai.jp

電話：窓口 高田記者 22-4109（本社）